蕭々しょうしょう 紅塵絶えて空潔く 都と 々として水寒 を北た の 海カ を越え来れば Ù

大いりく 我北州の島と凝る の精鍾まりて

鯨りょうぐん ゆる荒り 潮が

₽ 7

嘶なな 朝霧り 0 探決き野の 白玉散り乱 、駒の跡追へば 面も る

農牧の幸謳ふかなのうぼく きょうた ウの の畑は 土を払ふ時 たそがれて

鈴ずらん 風薫る春の Ō 野の 辺~

眺^な 四レ め 季き 吹^ふ雪き 0) い は 飽 ぁ 不燃ゆる 蔦 下蔭草繁る の変遷興添えて は叫ぶ冬の夜半 かぬ姿かな 蔦 葛

渺たる大可う ない かんほどり でょう たいが かたらずして さいが かんじゅう 古嚢は盛らず新酒な このう も にかざけ 見よ文明は北進す 新文明の建設は 地は広漠の沖積層 文明は北進す を

浮華軽佻の国といれます。くに此聖都を永久に 我ねお 真摯素樸の郷 アが使命成し遂げん となし [とせず

真したり の光照す可く の 秘奥探る可く

愛之助 君 作 詇

柳沢

秀雄

君

作

Ш